

## 平成 22 年度第 7 回常務理事会議事録

日 時：平成 23 年 2 月 4 日（金）15：00～17：20

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：吉村 泰典

副理事長：落合 和徳、和氣 徳夫

理 事：岩下 光利、岡井 崇、嘉村 敏治、吉川 史隆、小西 郁生、櫻木 範明、星合 昊、  
吉川 裕之

監 事：岡村 州博、星 和彦

第 64 回学術集会長：平松 祐司

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：内田 聡子、梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、久具 宏司、小林 陽一、榊原 秀也、  
下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、永瀬 智、阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿、  
渡部 洋

総会議長：松岡 幸一郎

総会副議長：佐川 典正、清水 幸子

理事会内委員会委員長：海野 信也、竹下 俊行

事務局：荒木 信一、桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名のうち全員が出席し定足数に達したため、吉村理事長が開会を宣言した。吉村理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、落合副理事長、和氣副理事長の計 3 名を選任し、これを承認した。

### I. 平成 22 年度第 6 回常務理事会議事録（案）の確認 原案通り、承認した。

### II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総 務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

##### (1) 会員の動向

①安田 迪之<sup>やすだ ひろゆき</sup>功労会員（京都）が 1 月 18 日に逝去された。（弔電手配済）

##### (2) 定款施行細則の改定について [資料：総務 1]

昨年 6 月の総会承認を受けて内閣府に申請した新定款との整合性を持たせるため、公益社団法人版の定款施行細則の改定を行いたい。

特に異議なく、全会一致で承認された。

##### (3) 公益社団法人認定後の役員および代議員選任規程の改定について [資料：総務 1-1]

役員および代議員選任規程は、昨年 6 月の総会で社団法人版の改定案が承認されたが、公益社団法人版は未承認であったため、同じ部分についての改定案を 4 月臨時総会に諮りたい。

特に異議なく、全会一致で承認された。

##### (4) 1 月に実施された代議員選挙の結果について [資料：総務 2]

**吉村理事長**「女性代議員が6名から17名へと増加し、大変良い傾向である。」

**松岡議長**「女性代議員の増加は大変喜ばしい。会員数の割合から考えて今後も増加していくことは間違いない。現在の議長団にも4年前に清水先生に入ってもらったが、もっと増えても良く、ぜひこの流れは維持して欲しい。」

**吉村理事長**「東京でも女性代議員が6名と1割を超えたが、それには女性代議員が女性会員に手紙を出して女性への投票を呼び掛けていた。このような努力も必要だろうと思う。」

(5) 公益社団法人認定申請に係る支部の扱いについて [資料：総務3]

**吉村理事長**「支部の扱いについて、公益認定等委員会是一段と柔軟姿勢に変わった訳だが、本学会としてはすでに従来の方針で準備を進めており、また多くの地方部会でも対応を完了しているので、このままの方針で進めていきたいが、それで良いか。」

特に異議なく、全会一致で承認された。

(6) 議長団の選任に係る確認事項 [資料：総務4]

**吉村理事長**「現理事は6月の定時総会までの任期であり新体制はそれ以降のスタートとなるが、実態的な新議長団のスタートは4月が良いという意見と6月という意見がある。」

**松岡議長**「以前は代議員の任期に合わせて2年ごとに議長団が選出されていたが、現在の定款では議長団は総会の都度選ぶことになっている。従来の考え方を踏襲しつつ新しい定款に沿って運営することを考えれば、4月に議長団が変わるのが分かりやすい。ただし総会の都度選ぶ手続きは必要である。」

**星合理事**「今までも毎回選ぶという手続きは守られてきた。」

**吉村理事長**「今度の4月臨時総会で新しい議長団を選任する、また6月総会でも諮るという事で良いか。」

特に異議なく、全会一致で承認された。

(7) 平成23年度臨時総会次第(案)及び議決権行使書(案)について [資料：総務5、6]

**嘉村理事**「役員選任議案について、議決権行使書で否決されたらどうなるのか。」

**岩下理事**「その場合は4月総会では賛成過半数の理事候補者のみを選任し、否認された候補者のブロックから再度出してもらった候補者を6月総会で選任することになる。ただ6月に選任された理事は、4月臨時総会の後に開かれる理事長予定者を選出する会合には参加できなくなる。」

特に異議なく、全会一致で承認された。

(8) 中期計画検討WG

①WG 答申の確認と補足修正について [資料：総務7]

**吉村理事長**「理事と監事は役割が違うこともあり、監事まで所信を求める必要はないと思う。また議決権行使書の賛否確認を厳格に行う必要があるため、責任者とそれを定めるルールを明記することにした。」

**荒木事務局長**「議決権行使書の賛否は重要であるので、『必ず賛否をご記入ください』という文言を入れた。また役員選任議案はすべて賛成が過半数を超えており、会場からの異議が無ければ一括審議が可能となる。なおこの議案は賛成が過半数を超えているかがポイントである。」

**平松第64回学術集会長**「理事長立候補者も500字で所信表明を書くということか。」

**岩下理事**「広く代議員に意見を表明したいという場合には書くことができる、ということである。」

特に異議なく、全会一致で承認された。

②今後の検討事項について [資料：総務8]

**岡村監事**「中期計画については、何年計画なのか、責任部署はどこか、具体的なアクションプランはどうか、単年度事業との関係はどうか、などをもっと詰める必要がある。さらに学術団体である学会として、学術に関する中期計画が欠けていないか、気になる。」

**岩下理事**「学術については、若手研究者育成という形で一括して入れたつもりである。全体については、何時、誰が、何処まで、などをまだ詰める必要があるし、1年ごとに点検評価した上で最終的な評価を行うなど、今後具体化に向けて検討して行きたい。」

特に異議なく、全会一致で承認された。

(9)臨時総会資料に添付する理事候補者の所信表明の書式について [資料：総務 9]  
この書式にて理事候補者に所信表明を依頼することにつき、特に異議なく、全会一致で承認された。

(10)学術集会期間中のビジネスミーティング日程について [資料：総務 10]  
特に異議なく、全会一致で承認された。

(11) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

1月26日現在、入金済4,915冊、校費支払のため後払希望 6冊。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会 特になし

(ハ) 周産期委員会 特になし

(ニ)女性ヘルスケア委員会 特になし

[Ⅱ. 官庁関係] 特になし

[Ⅲ. 関連団体]

(1)日本医学会

同学会を通して、平成22年度経済産業省「課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業」に係る公募のお知らせが送られてきた。公募期間は平成23年1月24日～2月21日であるため、HPに掲載して会員への周知を図った。[資料：総務 11]

(2)NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

今般、同委員会が事業年度を変更(10月スタートから4月スタート)することに伴い、本会から推薦している現理事(大村峯夫先生、土橋一慶先生)の任期を、平成24年3月31日まで半年間延長することの承諾を求められている。 [資料：総務 11-1]  
特に異議なく、全会一致で承認された。

(3)日本肥満学会

同学会から、2000年発表の基準を更改して作成中の「肥満症診断基準2011」について、内容の確認依頼があった。2月21日までに回答を求められている。 [資料：総務 11-2]

**吉村理事長**「生殖内分泌委員会およびガイドライン産科編委員会でチェックしてもらいたい。」

**平松第64回学術集会長**「本学会で決めた内容と異なる部分があるが、誰に意見を出せばよいか。」

**荒木事務局長**「回答期限も近いので、その場合は事務局にお知らせ願いたい。」

[Ⅳ. その他]

(1)子宮頸がん征圧をめざす専門家会議から、「インターナショナルセミナー：子宮頸がん予防の新展開 検診とワクチンの最新情報」(開催日時：平成23年2月18日、会場：野村コンファレンスプラザ日本橋)での後援名義使用許可依頼を受領した。経済的負担なく、これを応諾した。[資料：総務 12]

(2)NPO法人女性の健康とメノポーズ協会主催の「女性の健康週間 第18回女性の健康とメノポーズフォーラム 健康づくりはあなたがヒロイン～ミドルエイジは輝くスタート～」(開催日時：平成23年3月5日、会場：青山スパイラルホール)での後援名義使用許可依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾した。

(3)NPO法人乳房健康研究会主催の「ミニウォーク&ラン フォー ブレストケア ピンクリボンウォーク2011」(開催日時：平成23年4月3日、会場：日比谷公園)での後援名義使用許可依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾した。

## 2) 会 計 (和氣徳夫副理事長)

### (1) 平成 22 年度収支計算見込み、平成 23 年度予算編成について

2 月 4 日に会計担当理事会を開催し、平成 22 年度収支計算見込み及び平成 23 年度予算編成の最終案等について協議した。[資料：会計 1、1-1、1-2、1-3、1-4、1-5、1-6、1-7、1-8]

**桜田事務局次長**より「平成 23 年度予算は公益社団法人認定を受けていることを前提に 20 年会計基準を適用すること、予算および事業計画の承認は 2 月の理事会で受けること、平成 23 年度予算は総会議案とはしないが会計の事業報告のなかで報告することとしたい。」との説明があった。

さらに、①20 年会計基準の適用により損益計算ベースへ変更した結果、前年度の前受金収入を当期の事業収入とすることや費用項目として退職給付費用や減価償却費等を計上すること、②一般会計や特別会計は無くなり、公 1～公 4 までの公益目的事業会計と法人会計の区分になること、③公 1 の学術集会事業会計は 3 月末で締めること、④管理費のうち人件費や事務所賃料等の特定の費用は配賦基準に基づき各公益目的事業に配分されること、⑤収支相償や公益目的事業比率、遊休財産額の保有制限など、内閣府から提示されている法律上遵守すべき基準は全てクリアしていることの報告があった。

**和氣副理事長**「来年度予算はかなりフレキシブルに対応する必要がある。補正予算も必要となるだろうし、各都道府県学会への委託業務に関する費用をどう考えるか、1 年かけて対応したい。」

**吉村理事長**「公益目的事業は学術集会事業、機関誌等発行事業、調査研究等事業、専門医制度事業に分かれるが、ここでは原則として黒字を出してはいけない。これが収支相償である。公益目的事業比率も 70%を超えており、遊休財産額の保有制限も現時点では問題ない。」

**星合第 63 回学術集会長**「公益目的事業の中の学術集会事業など公 1～4 の各事業全てで黒字はダメということか。」

**吉村理事長**「各事業についてである。ただ例えば学術集会事業には、従来の学術講演会特別会計の部分だけでなく学術委員会の経費など従来一般会計に入っていたものも含まれている。」

特に異議なく、全会一致で承認された。

**吉村理事長**より「たった今、内閣府公益認定等委員会事務局より、本日の委員会への諮問が通り 2 月 9 日に本会が公益社団法人として答申される、との連絡があった。」との報告があった。

### (2) 特定資産取扱要領の改定について [資料：会計 2]

**和氣副理事長**「公益法人化後の特定資産は、学会運営安定化資金、管理運営安定化資金、退職積立金、名簿発行積立金で構成される。それら各々について目的や積立方法、取り崩し要件等を定めた。」

特に異議なく、全会一致で承認された。

### (3) 役員改選年度における予算作成プロセスについて [資料：会計 3]

**荒木事務局長**「予算は 2 月の理事会で承認を受けて 4 月からスタートするが、役員改選年度は 6 月に新体制が発足するため、その業務運営方針を反映させた補正予算を 6 月に組み、定時総会後の臨時理事会で承認を得るプロセスとしたい。」

特に異議なく、全会一致で承認された。

### (4) 公益法人化以降の本会予算 (含む事業計画)、決算の承認および報告方法について

特に異議なく、全会一致で承認された。

## 3) 学 術 (吉川裕之理事)

### (1) 学術委員会

①平成 22 年度優秀論文賞第二次予備選考委員会を 2 月 24 日に開催する予定である。

②妊娠と薬に関するガイドライン作成のための準備委員会を 2 月 24 日に開催する予定である。

③学術担当理事会及び第 3 回学術委員会を 2 月 25 日に開催する予定である。

**吉川(裕)理事**「臨床研究の審査委員会については前回の理事会で設置の承認を頂いたが、更に総会での承認が必要かどうかご意見をいただきたい。必要なしであれば次回の理事会で再提案の上、早めにスタートさせたいと考えている。また学術集会の会場条件については、8 会場指定制自体を見直すか、会場条件のみ見直すかについて、第 63 回学術集会が終わったところで本格的に議論をしたい。更に

産婦人科専門医のための教育プログラムについても項目ができ次第、会議を開く予定である。」  
**吉村理事長**「臨床研究の審査委員会は、早く立ち上げることも大事であり、理事会承認で良いと思う。」  
特に異議なく、全会一致で承認された。

(2) プログラム委員会関連

①第64回学術講演会プログラム委員会を2月24日に開催する予定である。

(3) ガイドライン—産科編

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編2008」頒布状況について

1月26日現在、入金済11,911冊、後払希望2冊。

**吉川(裕)理事**「最初の説明の部分とQ&Aだけを英文化してJOGRに投稿し、acceptされた。」

(4) ガイドライン—婦人科外来編（予約状況）

2月3日現在、入金済4,245冊、後払希望78冊。

#### 4) 編集（岡井 崇理事）

(1) 会議開催

(2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：2011年投稿分（平成23年1月末現在）

投稿数91編（うちAccept2編、Reject9編、Withdrawn/Unsubmitted15編、Under Revision2編、Under Review59編、Pending4編、Expired0編）

#### 5) 渉外（落合和徳副理事長）

(1) 会議開催

①第4回渉外理事・幹事会議を2月25日に開催の予定である。FIGOの活動への参加の方向性を検討するため、JICAから母子保健担当者にご出席いただく。本会役員、議長、副議長にもご出席を依頼した。

②第63回日産婦学術講演会期間中、4月15日にACOG、SOGC役員とのミーティングを開催の予定である。（SOGC 13:30-14:15、ACOG 14:30-15:15）

[FIGO関係]

(1) FIGO World Congressのアジア・オセアニア地区での開催年について [資料：渉外1]

**落合副理事長**「アジア・オセアニア地区での開催年は2021年となる。国際会議招請にはかなり周至な準備が必要であり、2021年大会の開催場所が決定される2015年に向けて準備を進めたい。」

**平松第64回学術集会長**「第64回学術集會にFIGO関係者を招請する件は理事会の判断によるが、現時点では従来通り進めたい。」

[AOFOG関係]

(1) AOCOG2011が本年9月に開催されるにあたり、AOFOGより、Shan S. Ratnam Young Gynaecologist Award (SSR-YGA)およびYoung Scientist Award (YSA)への寄付依頼があり、本会よりそれぞれ100万円、50万円を寄付した（1月24日） [資料：渉外2]

#### 6) 社保（星合 昊理事）

(1) 会議開催

第5回社保委員会を2月4日の常務理事会終了後に開催する予定である。

(2) 第63回日本産科婦人科学会学術講演会に於いて4月17日、「第4版 産婦人科医のための社会保険ABC」の改訂に伴う解説講演を行う。

(3) 3月5日、丸の内 東商ホールにて、外保連主催による市民公開シンポジウムが開催される。

[資料: 社保 1]

## 7) 専門医制度 (櫻木範明理事)

### (1) 会議開催

第4回中央委員会を1月29日に開催した。

(2) 平成23年度新規専門医認定審査に関わる案内・受験票、平成22年度生涯研修実施報告書、平成22年度卒後研修指導報告書、地方委員会所在地・専用口座確認依頼状を送付予定である(2月8日)。

(3) 専攻医指導施設の施設区分について[資料: 専門医制度 1、2]

専攻医指導施設の施設区分についての調査用紙を指導責任医宛に送付する。また学会ホームページにも掲載する。

**櫻木理事**「ここ数年変更が多かった産婦人科専門医制度の概要をまとめて会員に伝えたい。次回理事会でそれぞれの項目についてのご意見をいただいた上で、HP等にアップして行きたい。」

**吉川(裕)理事**「A, Bと区別してもらうためには、基準を示さないと答えにくいのではないかと。もしくは申告通りではなく審査がある旨を伝えた方がよいのではないかと。」

**落合副理事長**「自己申告方式もあるが、実態把握するアンケートとしてこちらで判断する方式もある。」

**星合理事**「厳格すぎるのも問題なので、審査をすることがある、という一文を入れておけばよい。」

**櫻木理事**「Aと回答した施設には実情を教えてくださいということもある、とすることでもよい。」

**和氣副理事長**「専門医には施設基準と個人の基準がある。個人の資格は厳しくあって良いが施設基準は厳しくし過ぎると時代の変化についていけなくなる。」

**吉川(史)理事**「4月から適用されることなのでできるだけ早く各施設にA, B等の通知を行う必要がある。」

**嘉村理事**「バランスの良い研修を行ってもらおうという目的を明記しておいた方がよい。」

**佐川副議長**「学会の専門医指導施設であるから学会がAかBかを認定するものではないか。」

**櫻木理事**「学会が認定する基準は定められていない。また研修指導報告書の報告基準にも曖昧な部分もあり、今回の概要で明示することにしたい。このように様々な基準や認定ルールなどについては少し時間をいただいて決めていくことにしたい。」

**吉村理事長**「まずは調査をしてみてもどうか。実態がもう少し把握されたところで再調査や基準作りなど対応を考えて行けばよい。そうしないと専攻医の先生方が混乱してしまう。」

調査実施について、これ以上特に意見なく、全会一致で承認された。

### (4) 日本専門医制評価・認定機構

2月1日に「専門医制度の将来構想についての協議」が開催され櫻木委員長が出席した。

## 8) 倫理委員会 (嘉村敏治委員長)

### (1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成22年1月20日)

① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録: 46 研究

② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録: 588 施設

③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録: 588 施設

④ 顕微授精に関する登録: 505 施設

⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録: 15 施設

### (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

平成23年1月21日現在申請213例 [承認186例、非承認4例、審査対象外15例、取り下げ1例、審査中6例、照会中1例]

### (3) 会議開催

- ①平成 22 年度第 4 回着床前診断審査小委員会を 1 月 18 日に開催した。
- ②平成 22 年度第 3 回倫理委員会を 1 月 28 日に開催した。

(4) AID 実施新規登録の問い合わせに対する回答について [資料：倫理 1]

**嘉村理事**「受理するが個人情報の保管等には留意することとした。」  
特に異議なく、全会一致で承認された。

(5) 性同一性障害夫婦に AID を行う前提となる、AID で生じた親子関係の法的な解釈について、本学会から法務大臣あての質問状を提出した。 [資料：倫理 2、2-1、2-2]

**吉村理事長**「『嫡出推定および認知は不可能、特別養子については裁判所が判断すること』というのが、現行法に沿った法務省の解釈である。法務省の回答が来たらこれを会員および登録施設に伝える必要があり、特にインフォームドコンセントを重視してもらいたいということである。」  
特に異議なく、全会一致で承認された。

(6) 「出生前に行われる検査および診断に関する見解」改定案（全文案）について [資料：倫理 3]

**嘉村理事**「2 月 10 日までに意見を集めた上で理事会に諮りたい。」  
特に異議なく、全会一致で承認された。

(7) 本年 4 月 1 日施行される「ヒト受精胚の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針」について、本会会員からの問い合わせがあった。 [資料：倫理 4]

**吉村理事長**「受精卵を作成する実験については、今回出た国のガイドラインに従って対応していただく必要がある。また幹細胞の研究申請については学会に申請する必要はない。」  
特に異議なく、全会一致で承認された。

(8) 久具副委員長より「配偶子提供の実施に向けての私的考察」が提出された。 [資料：倫理 5]

**久具副委員長**「配偶子提供が社会で議論になってきており、また AID で生まれた子の知る権利の議論が起こるなかで、学会としてこの問題の論点を予め考えておく必要があるということでもとめてみた。」  
**吉村理事長**「引き続き倫理委員会などで検討していただき、次回の理事会でも意見を求めて進めたい。」  
特に異議なく、全会一致で承認された。

## 9) 教 育 (小西郁生理事)

### (1) 会議開催

- ①1 月 14 日に第 3 回若手医師企画打合会を開催した。また、2 月 18 日ならびに 3 月 11 日にも開催する予定である。
- ②1 月 21 日に平成 23 年度第 1 回専門医認定筆記試験問題作成委員会を開催した。
- ③1 月 21 日に西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部奨学基金奨学生選考委員会を開催した。
- ④2 月 4 日に TAOG 派遣予定者ならびにコンダクターを含め派遣前打合会を開催する。
- ⑤2 月 18 日に用語集改訂に関して各専門委員会委員長・副委員会を交え打合会を開催する予定である。
- ⑥3 月 4 日に第 2 回スプリングフォーラム実行委員会を京都において開催する予定である。

### (2) 「産婦人科研修の必修知識 2007」頒布状況について

1 月 25 日現在、入金済 4,355 冊、校費支払のため後払希望 2 冊。

### (3) 西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部奨学基金の奨学金給付予定者について [資料：教育 1]

### (4) 学会外団体等の奨学基金支給対象者選考委員会規程について [資料：教育 2]

特に異議なく、全会一致で承認された。

### (5) 「産婦人科研修の必修知識 2011」電子図書化について

本年 3 月末に冊子体発行の予定であるが、電子図書化 (iPad 等で購読する) についても検討したい。

10) 地方連絡委員会 (和氣徳夫副理事長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (吉川史隆委員長)

(1) 会議開催

5月20日の常務理事会開始前に広報委員会・情報処理小委員会合同委員会を開催する予定である。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(5) 一般向け Educational 疾患説明文のHP公開について [資料：広報4]

吉川(史)理事「近日中にアップする予定なので、意見等あれば早目にご指摘願いたい。」

(6) 本会HP会員専用ページに掲載中のキッセイ薬品工業(株)バナー広告について、2月1日から1年間の掲載延長が決定した。

吉川(史)理事「地方部会での女性の健康週間に対して300万円の後援・援助を行っているが、今回は申請の遅れもあり、少し予算を上回った。」

2) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長) 特になし

3) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 平成22年度第1回拡大医療改革委員会を1月30日に開催した。

海野委員長「大学医局を経ない若手医師の考え方とその後のキャリアパスをどうするのかなど、若手をどう育成して行くのかについて検討するテーマがあるように思った。」

(2) 厚生労働省 保険局 総務課より、出産育児一時金直接支払制度実施要綱等が送付されてきた。本要綱は1月31日に発出された。 [資料：医療改革1、1-1、2、2-1]

海野委員長「2月中に申請を行う必要があるので、医会から集中的に広報する予定である。いまのところ大きなクレームはない。」

(3) 婦人科腫瘍診療に関するアンケート調査 [資料：医療改革 3]

第1回婦人科腫瘍診療に関するアンケート調査票を、ご協力のお願いと共に専攻医指導施設、婦人科腫瘍登録施設に送付した。

海野委員長「診療報酬改定に関して救急周産期医療等対策室と相談した。現在、厚労省各部署が要望事項を出している段階だが、地域周産期母子医療センターについてNFICU算定が出来るようにするメリットがどの程度あるか、具体的な情報があれば教えてほしいとのことである。」

吉村理事長「地域周産期母子医療センターや大学病院に直接聞いてみた方が早いのではないか。」

4) 男女共同参画委員会 (竹下俊行委員長)

(1) 女性の健康週間について [資料：男女共同参画1]

①女性の健康週間ポスター、ポスター掲示依頼文書、女性の生涯健康手帳申込用紙を医会報2月号に

同封し会員へ配布の予定である。

- ②2月22日、プレスセミナーをスポンサーなしで開催することとなった。〔資料：男女共同参画2〕
- ③日経新聞丸の内キャリア塾に掲載の吉村理事長インタビュー記事について（2月15日掲載予定）  
〔資料：男女共同参画3〕
- ④1月14日、清水委員長が日経新聞丸の内キャリア塾に掲載の「働く女性の健康（仮）」の記事準備のための取材を受けた。
- ④1月19日、清水委員長が20代、30代女性の「不定愁訴」について（株）QLifeの取材を受けた。  
女性の健康週間に合わせ「日経ウーマン」他に記事掲載の予定である。
- ⑤「丸の内キャリア塾 女性の健康週間特別セミナー」（3月1日、2日、於：東京ステーション  
コンファレンスサピアホール）について 〔資料：男女共同参画 無番〕

(2) 地方部会担当公開講座について 〔資料：男女共同参画4〕

(3) 1月30日に開催された平成22年度第1回「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革公開フォーラム」において、「男女産婦人科医師キャリアサポート委員会調査結果報告（北澤幹事）」を行った。

#### 5) 若手育成委員会(齋藤滋委員長欠席につき、永瀬主務幹事)

(1) 第5回産婦人科サマースクール若手医師企画委員について

理事ならびに若手育成委員会委員よりご推薦いただいた。今後、どなたにお手伝いいただくかを検討したい。

### Ⅲ. その他

星合第63回学術集会長「次回理事会終了後に、今年度の受付システムの説明会を弘済会館のコングレ本社で行う予定である。お時間のある方は参加ください。」

以上

#### 資 料

1. 第6回常務理事会議事録

2. 第7回常務理事会業務担当理事報告並びに関連協議事項予定内容

総務1：公益社団法人日本産科婦人科学会定款施行細則改定新旧対照表(案)

総務1-1：公益社団法人 日本産科婦人科学会役員および代議員選任規程新旧対照表(案)

総務2：社団法人日本産科婦人科学会代議員氏名 平成23年1月改選

総務3：激震！内閣府方針変更

総務4：議長団選任に係る確認事項

総務5：平成23年度日本産科婦人科学会臨時総会次第(案)

総務6：議決権行使書(案)

総務7：中期計画検討WG 答申

総務8：中期計画(案)

総務9：所信表明フォーマット

総務10：第63回学術講演会におけるビジネス会議等日程表案

総務11：平成22年度経済産業省「課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業」に係る公募のお知らせ

総務 11-1：推薦役員の任期延長についてのご承諾  
総務 11-2：「肥満症診断基準 2011」についての確認依頼  
総務 12：インターナショナルセミナー：子宮頸がん予防の新展開 検診とワクチンの最新情報  
会計 1：平成 23 年度予算書の取扱について  
会計 1-1：平成 23 年度収支予算書(開示用)  
会計 1-2：平成 23 年度収支予算書(作業用)  
会計 1-3：16 年基準/20 年基準科目対比表  
会計 1-4：平成 23 年度収支予算書総括表  
会計 1-5：平成 22 年度収支決算見込書総括表  
会計 1-6：資金調達及び設備投資の見込みについて  
会計 1-7：別表 B(1) 公益目的事業比率の算定総括表  
会計 1-8：基本金等の原資について  
会計 2：特定資産取扱要領改定案  
会計 3：役員改選年度における予算作成プロセスについて  
渉外 1：FIGO World Congress of Gynecology & Obstetrics 2018 Basic Requirements  
渉外 2：Shan S. Ratnam Young Gynaecologist Award  
社保 1：「女性の病気と付き合うには」シンポジウム企画案  
専門医 1：専門医制度専攻医指導施設指導責任医各位  
専門医 2：専攻医指導施設の施設区分について  
倫理 1：「非配偶者間人工授精に関する登録」申請への回答  
倫理 2：質問状  
倫理 2-1：会員へのおせらせ(案)  
倫理 2-2：性同一性障害患者夫婦への非配偶者間人工授精について  
倫理 3：「出生前に行われる検査および診断に関する見解」改定案  
倫理 4：会員からの問い合わせメール  
倫理 5：配偶子提供の実施に向けての私的考察  
教育 1：西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部奨学基金の奨学金給付予定者  
教育 2：学会外団体等の奨学基金支給対象者選考委員会規程(案)  
広報 1：JSOG-JOBNET 事業報告  
広報 2：ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について  
広報 3：JSOG ホームページアクセス状況  
広報 4：一般向け Educational 疾患説明文  
医療改革 1：出産育児一時金等の支給申請及び支払方法について  
医療改革 1-1：出産育児一時金等の支給申請及び支払方法について (1 月 31 日発出版)  
医療改革 2：出産育児一時金等の受取代理制度に係る届出について  
医療改革 2-1：出産育児一時金等の受取代理制度に係る届出について (1 月 31 日発出版)  
医療改革 3：婦人科腫瘍診療に関するアンケート調査へのご協力のお願い  
男女共同 1：平成 22 年度女性の健康週間展開案について  
男女共同 2：女性の健康週間プレスセミナーのご案内  
男女共同 3：日経新聞丸の内キャリア塾の掲載の吉村理事長対談記事  
男女共同無番：丸の内キャリア塾 女性の健康週間特別セミナー  
男女共同 4：地方部会担当公開講座一覧

以上